

## 1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

全国を100とした標準化得点(文科省)で国語98、数学96を目標とする。

## 3.指標に向けての取組

### ○基礎・基本の定着

- ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する
- ・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)

### ○家庭学習の質と量の向上

- ・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる) ・個に応じた週末課題の提示と振り返り

### ○授業改善

- ・定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施

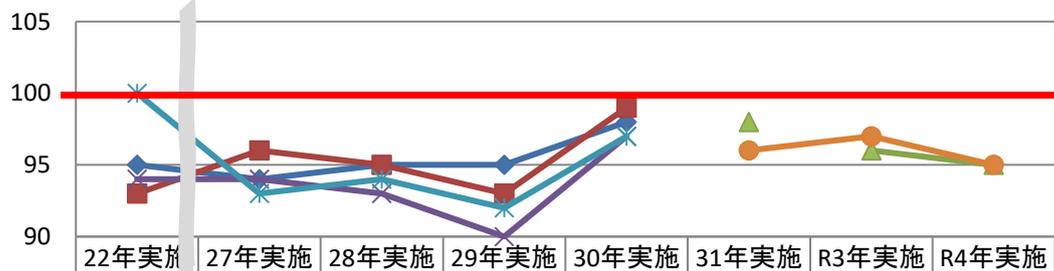
- 各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

- 語彙を増やすための活動、辞書の活用場面を増やすことで語彙力を高める

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	95	95
嘉麻市	97	96
全国	100	100

## 推移



	22年実施	27年実施	28年実施	29年実施	30年実施	31年実施	R3年実施	R4年実施
◆国語A	95	94	95	95	98			
■国語B	93	96	95	93	99			
▲国語						98	96	95
✕数学A	94	94	93	90	97			
✧数学B	100	93	94	92	97			
●数学						96	97	95

※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

## 5.各学校における分析

### 【国語】

○全ての内容において県や全国の平均正答率を下回っているが、14題の設問中6題で無回答率が0パーセントであった。最後まで粘り強く取り組む姿勢が向上していると考え。

●記述式の問題において、無回答率が多く、また県や全国の平均正答率よりも低い状況にある。そのため、国語科だけではなく、全ての教科において、「根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書く」言語活動の充実をより一層図る必要がある。

### 【数学】

○全ての内容において県や全国の平均正答率を下回っているが、「図形」に関する問題は、県や全国の平均正答率に近い結果となった。これは、朝学習での基本的な問題を徹底して行ったことや、授業の中で、自分の考えを表現させることを意識した言語活動を位置づけたことが効果として出てきたと考える。

○14題の設問中4題で無回答率が0パーセントであった。最後まで粘り強く取り組む姿勢が向上していると考え。

●主に「関数」「データの活用」の平均回答率が低い状況にある。数学的に思考判断し、表現する学習を行うことがより一層必要となると考える。

## 6.各学校における今後の取組

### ○基礎・基本の定着

・単元(題材)の中で、学習内容の定着を図る単元テストを計画的に実施する(単元指導計画に位置づけ、計画的に実施する)

・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)  
→数学全学年共通問題によるブロック活動の設定

### ○授業改善と家庭学習の質と量の向上

・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる → 自分の弱点を克服するための学習)  
→生徒会活動と連動して質をあげる取組の設定

・個に応じた週末課題の提示と振り返り → 反復練習を重視する

・教師用授業チェック表を活用し、教科部会で検証を行い、実態や改善策を共有して実践する

○定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施 → 根拠を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを書き、それをもとに交流する活動

○各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

○稲築中学校校区としての取組の推進(「授業の約束」の徹底や小中学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。